大原野地域

データファイル

- 人　口　9,738人
- 世帯数　3,166世帯
- 面　積　24.714km²

＊平成17年国勢調査（10月1日現在）

悠久の大地

わが大原野は千年以上もの昔から，言わば観光の名所でした。

「類聚国史」天皇遊猟の部によると，桓武天皇は延暦11年（西暦793年）からの13年間に24回も鷹狩にこの地を訪れ，また，大原野は和歌によく詠まれる「歌枕」の地としても知られ，数多の物語にも登場します。

先ず，最古の歌集である「萬葉集」第10巻に

小牡鹿の入野のすすき初尾花
いずれの時か妹が手むかむ

とあるのは古くは地形から入野と称された大原野で詠まれたものです。

また，最初の物語文学である「竹取物語」でかぐや姫への求婚者の一人を石作の皇子としているのは，作者がその舞台としてこの辺を意識したのではないかと想像されます。

ところで，長岡遷都の際，藤原氏出身の皇后の参詣の便のために春日明神を勧請した大原野神社へは天皇皇后の行幸行啓が多く，王朝時代には社運も隆盛し，伊勢の斎宮や賀茂の斉院と同じような「斉女」が置かれ，15世紀初頭には朝廷から奉幣が伊勢・石清水・賀茂・松尾・平野・稲荷・春日・大原野の八社に限定されたほどです。

「伊勢物語」76段は「古今和歌集」（巻17雑歌上）の在原業平の

大原や小塩の山も今日こそは
神代のことも思い出づらめ

という歌を二条の后藤原高子との若き日の恋の思い出を密かに託したものと解釈しています。「大和物語」の161段も同様です。

そして，その後十輪寺などで業平にまつわる伝承が語り継がれることになりました。

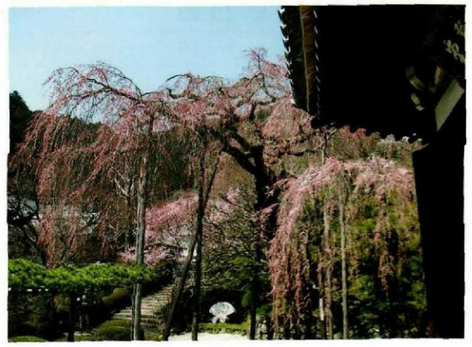
紫式部の「源氏物語」行幸の巻は冷泉天皇の大原野への鷹狩行幸が描かれています。

歴史物語「大鏡」第5巻には大原野神社その他の藤原氏の氏神についての記述が多くあります。

南北朝の軍記「太平記」第39巻には「道誉大原野の花の会の事」と題して，ばさら大名佐々木道誉が貞治4年（1365年）3月4日の将軍の御所の花見の会へ参加を約束しながらすっぽかして，桜の名所として知られた勝持寺へ，京中の遊芸人や白拍子を引き連れて、派手で盛大な観桜の宴を催して一躍大評判となったことが書かれています。

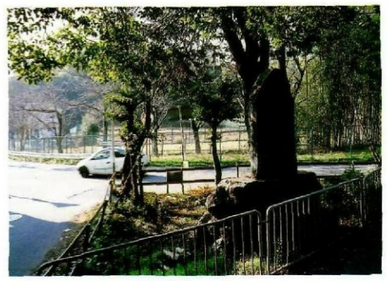
その他，大原野を舞台とした謡曲には「紅葉狩」，「小塩」，「西行桜」などがあります。

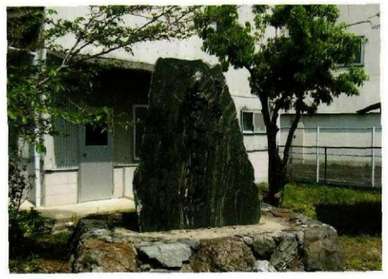
以上，思いつくままに，郷土の出てくる主な古典を列挙してみました。


善峯寺　桂昌院お手植え枝垂れ桜

勝持寺の桜

紅葉の十輪寺


都市計画道路整備予定地（上里南ノ町付近）


府営ほ場整備事業竣工記念碑（春日公園）

新緑の大原野神社

大原野森林公園

石作町坂本の棚田